



光 さんさん

吉原小学校だより

創立記念特集号

平成29年9月6日発行

校長 池田 直哉 在籍数51名

夢をもち 共に学び きたえる

心豊かな児童の育成

稲敷郡で2番目に早かった完全給食の開始！

9月8日に創立138周年を迎えます。しかしながら、来年度からは創立を数えることもなくなってしまいます。本当に寂しい限りです。「138年間ずっと大切な場所 そしてこれからも」のフレーズには、学校がなくなってもこれからもずっと大切な場所であってほしいことを願っています。どうか、この場所に集まれる機会を皆様で考えていただければと存じます。

さて、今回は歴史ある学校給食にまつわるエピソードをいくつかご紹介します。昭和31年の松本良隆校長の時に完全給食が開始されました。栗山広司 PTA 会長と連日のように家庭訪問をして、保護者と膝をつき合わせて語り合った結果100%の賛成を得て始まりました。稲敷郡でも2番目に早かったそうです。

- 1956年 昭和31年 完全給食開始
- 1963年 昭和38年 給食調理室新設
- 1964年 昭和39年 学校給食賞受賞
- 1972年 昭和47年 阿見町給食センター開設



○ 松本良隆校長

今まで牛乳を飲んだことのない子どもたちが、一斉に同じ食をとり、音楽を聴きながらの食事なので生徒の心も明るくなり、学力も急に伸びていった。しかし現代のように機器の設備も完備していないなかで、まかないをしてくれた給食婦さんには今でも涙がこぼれるほど感謝している。

○ 鈴木明校長

当時は食糧事情が絡み、青少年の抜本的心身の健全育成を目指し、国を挙げ学校給食の普及奨励が重点課題であり、前任の松本良隆校長先生が完全給食として郡下にさきがけて実施された後を継ぎ、その改善と普及に郡下近隣の研究集会をもった思い出がある。貴学区は万事進歩的で非常なご理解とご協力を示され人情味溢れる模範地域であった。

○ 下村きよ子さん(旧姓 篠崎)

当時は、献立の種類も多くはありませんしパンはいつもコッペパンで、ミルクといえば脱脂粉乳でした。カレー、シチュー、サラダ、うま煮、みそ汁があり、ジャガイモの収穫時には児童一人当たり何キロかの寄付をいただき、その芋で、時にはお肉屋さんで、出来立てのコロッケと交換してもらったこともありました。その頃の給食室には大きな釜が2つあり、燃料は薪を使っていたのです。

○ 大高好子さん(昭和33年卒 旧姓 糸賀)

私が入学した当時は、下駄に半てん、もんぺという姿が多く、それから4年後、町村合併があり、時の変化と共に服装の方も、もんぺからズボン、下駄からズック靴へと変わったように記憶している。また、それと時を同じくして、近在の学校に先がけて完全給食が実施され、弁当を持参しなくてもすむようになったことも覚えている。そのようなことを思い浮かべると、私達の年代は、ある意味で、ひとつの節目ではなかったかと思われる。

○ 岡野きぬさん

勤めたときは完全給食が始まって間もない時でした。それまでの弁当に代わっての給食は、大変な労力を要しましたが、子どもたちの一番の人気を集めていました。燃料は、校庭の樹木をPTAの方々の手で伐採し、それを薪として使っておりました。完全給食でしたのでみそ汁は勿論のこと、スパゲッティーや鯨肉の料理など特に骨を折って作りました。鯨の料理は、大好物の一つで卒業の当日卒業生に食べてもらいました。38年には給食室も新しく造られ重油使用となり、大分仕事も楽になりました。



卒業祝宴給食(昭和39年3月24日)今で言う謝恩会なのでしょうか。この席で振る舞われたのが、恒例となっていた鯨料理だったそうです。

学校給食表彰披露祝賀式(昭和40年1月7日)学校給食賞受賞に伴い、感謝状が、松本良隆先生、栗山広司氏、菊間パン店主に贈呈されました。

